



詩集
Moon Lovers
XI

たかはしみどり

Moon Lovers XI

たかはしみどり

時のさまよい人

ここは過去と未来とが交差する場所
現在 (いま) と呼ばれる苦痛の場所
僕たちはどこから来て
どこへ向かって行くのだろう
昨日見た夕日を明日も見られるだろうか
昨日の君の笑顔は明日も同じだろうか

ここは過去と未来とが交差する場所
現在 (いま) もすぐに過去へと変わる
僕たちは別れを知らながら
なぜ出会ってしまったのだろう
時が経てば君を忘れてしまうのだろうか
時が経てば温もりも忘れてしまうだろうか

そばにいて

青い空に輝く太陽
まるで君の笑顔みたいだ
例えばぼくが一人でいても
いつでも心はそばにいる
君も同じだといいのに
今 君は同じ空を見てるだろうか

暗い夜に瞬く星たち
まるで君の瞳みたいだ
例えば君が寂しい時も
心で君を抱きしめている
君も同じだといいのに
今 君は同じ星を見てるだろうか

これからもずっと光り続けて
君と心 寄り添っていよう
例えば夜の闇の中で
見失ってしまっても
必ず君にたどり着く
僕の未来には君がいる
今 君も同じ未来を見てるだろうか

サヨナラの前に

残された時間はあと少し
何もかもが愛おしく思える
公園のブランコに
ベンチに 噴水に
イチョウ並木に
思い出にキスしよう

残された時間はあと少し
昔上ったあの屋根に
今 もう一度上ったら
きっとあの頃とは
違うものが見える
すべて心に閉まっておこう

残された時間はあと少し
手を伸ばせば届きそうな
あの空 月 星
吸い込まれそうな暗闇
この心はどこへ行く
サヨナラは誰にも言わない

残された時間はあと少し
知っているのは僕一人

有刺鉄線の中の幻

触れたらだめだよ
その気持ちは幻だから
触れたらきっと怪我をする

「君のすべてが大嫌い」と
そんなひどい言葉を投げつけ
君の心を殺してしまった

ほんとの心は伝えられない
僕の重荷を君が背負うことはない
僕にはできなかつたんだ

だから君を傷つけたまま
僕は有刺鉄線に鍵をかけ
遠くからただ君を見ていた

でも君は耐えきれず
先に逝ってしまったから
鍵を壊して今 行くよ

有刺鉄線の中の幻は
もう隠す必要はない
僕は自由になったんだ

僕の命で償うか
君を背負って過ごしていくか
残されたのは重い選択

どちらを選ぶにしても
残された時間はあと少し
知っているのは僕一人

月にはウサギ

猫にはマタタビ

海には船

森には川

雨には虹

夜明けには光

日暮れには夕焼け

土星には輪

月にはウサギ

眠りには夢

君には花

僕には君

君の望み

君の望みは知ってるよ
僕が消えることだろう？
それならはっきり言えばいい
それで傷付くのは君の心だ
できる事なら消えてしまいたい
だけどそれは叶わない
僕にそんな勇氣はない
もしもそれを望むなら
君が自分でやればいい
そうさ 僕を消せばいい
僕はとっくに君のこと
心から消してしまったよ

もう一人の私

もう一人の私がいるという
北の果てにいるという
これから彼女に会いに行こう
彼女はどんな人だろう
私と似ているだろうか
どうせなら すごくいい人がいい
私とは正反対の人
寒い国に温かい心を
咲かせるような人がいい

その先にあるのは

君が伸ばした手の先にあるのは
君を励まし勇気づける
共に歩む誰かの手

この一歩の先に生まれる
明日へ続く未来への道
果てなく続く希望の道

この涙の先にあるのは
夢の叶う光の道
ずっとずっと消えない虹

君の視線の先にあるのは
空に輝く優しい月
明日へ導く道しるべ

詩集MOON LOVERSXI

<http://p.booklog.jp/book/97998>

著者：たかはしみどり

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/midri7911/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/97998>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/97998>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ